

《そ の 他》

## ミクロネシア連邦ポンペイ島における健康や病気に関連した 日本語由来のポナペ語についての一考察

三 上 聖 治<sup>1)</sup>, 竹 森 幸 一<sup>2)</sup>, 浅 田 豊<sup>2)</sup>  
仁 平 将<sup>3)</sup>

要旨：ミクロネシア連邦ポンペイ島で話されているポナペ語について、ポナペ語－英語の辞書をデータベース化して、日本語由来のポナペ語について調べた結果

1. 全6,687用語中、日本語と関連した用語は294語であり、4.4%であった。
2. そのうち、軍隊関連の用語は25語であり、意外に少ないように思われた。
3. 健康や病気に関連した用語は8語しかないのに対して、体育関連は19語と多かった。

キーワード：ミクロネシア連邦、ポンペイ島、ポナペ語、日本語

### は じ め に

現地の言葉で songaipwisi とか densinpasura と書かれればどんなことを想像するであろうか。日本語にすればそれぞれ、「障害物」、「電信柱」である。Kaselehlia とハワイ語の Aloha と全く同じような使い方をする現地とはミクロネシア連邦ポンペイ（ポナペ）島である。

我々は、ミクロネシア連邦独立前の1985年（Susumu 1986）と独立後の1994年に現地で総合学術調査（Mikami 1995）を実施したが、当時の古老達は一様に昔ながらのきちんとした日本語を話すことに驚いた。日本は1914年の太平洋戦争の勃発とともに旧ドイツ領であったミクロネシアを占領し、1945年の敗戦まで30年以上に亘って主に沖縄出身者が現地に住み、原住民に日本語を教育してきた歴史がある。我々は、調査当時に現地でポナペ語－英語（Ponapean-English Dictionary）の辞書を入手し活用したが、今回その辞

書から日本語由来の語彙内容の種類とポナペ語全体に占める割合を調べ、当時の時代背景との関連について考察したので報告する。

### ミクロネシア連邦とポンペイ島について

#### ミクロネシア連邦について

World Fact Book (<https://www.cia.gov>) の last updated on 19 December 2006 によると、

位置：ハワイからインドネシアへ3/4のあたり  
(図1参照)

気候：熱帯；一年を通じて多雨、台風の発生場所

地形：火山島で珊瑚礁

人口：108,004人（2006年）

人口構成は0-14歳 36.6%, 15-64歳 60.4%, 65-3%であり、平均寿命は男68.24年、女71.95年である。

宗教：カトリック50%, プロテスタント47%

言語：英語（公用語、共通語）、トラック語、ポナペ

1) 弘前学院大学看護学部

連絡先：三上聖治 〒036-8231 弘前市稔町20-7 弘前学院大学看護学部

2) 青森県立保健大学健康科学部

3) 青森県八戸保健所

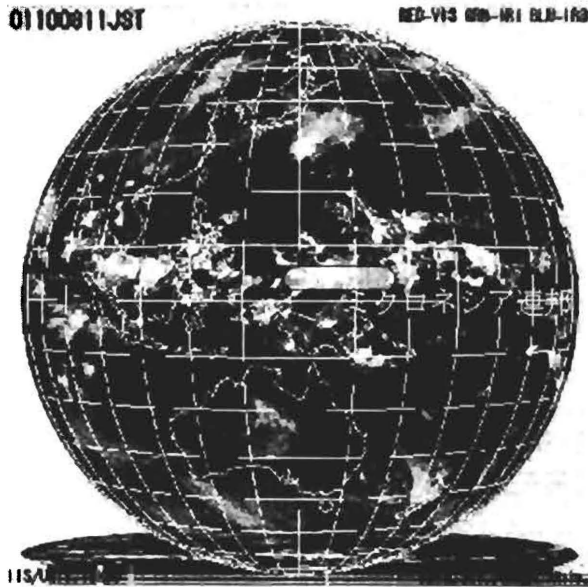


図1. ミクロネシア連邦の位置

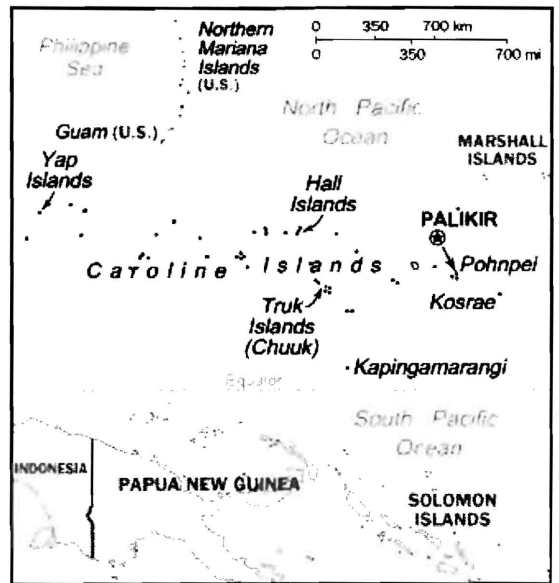


図2. ポンペイ島の位置

<http://www.cia.gov/cia/publications/factbook>から引用



写真1. ポンペイ島に残る国民学校跡

語, ヤップ語, コスラエ語, 他4

首都: パリキール (Pohnpei島)

州: 4つ huuk (トラック), Kosrae (クサイ), Pohnpei (ポナペ), Yap (ヤップ)

WHO (<http://www.who.int/countries/fsm/en/>) の The latest Core Health Indicators from WHO sources including World Health Statistics 2006 and The World Health Report 2006 Edition による2000年の医師は64人, 看護師が410人, 助産師が7人, 歯科医が14人配置されている。

地元の唯一の大学である College of Micronesia には医療関係の学部が見当たらない。

田尻 (1989) によると, 「1914年10月14日, 日本軍のミクロネシア占領とともに現地での日本語教育が始まる。日本人からの移民も積極的に奨励された。1925年には7,430人に過ぎなかった日本人は, 1940年の統計によれば80,490人となり, ミクロネシア人の50,648人をはるかに超えてしまった。日本人の60%以上は沖縄県人であったといわれている。1923年3月にはパラオ(ペラウ)に南洋庁が設置された。ここで数次にわたって日本語の教科書が刊行され, サイパン, ヤップ, パラオ, トラック, ポナペ(ボンペイ), ヤルートの各支庁に合計25の公学校が設置された。写真1は1994年にボンペイ島で南洋庁ポナペ国民学校跡地を筆者が撮影



写真2. 龍宮城伝説のあるナンマトール遺跡



写真3. 州観光局脇にある旧日本軍のミニタンク

したものである。公学校3年と補習科の2年がおかれ、各学年とも毎週10時間の日本語の授業が行われた。」と記載されている。

図2はミクロネシア連邦における、ヤップ州、チューク州、ポンペイ州、コスラエ州の位置を示している。

#### ポンペイ島について

Gene (1993) によると、pohn and pehiは“upon a stone altar”という意味であり、島がどのようにしてできたかの伝説に基づいている。

スペイン統治時代の初期には、ポンペイであった

が、ドイツ統治時代にボナベと名づけられ、日本統治時代もボナベと呼ばれた。1984年に新しい州として生まれ変わったときに、伝統的なポンペイ (Pohnpei) に戻った。

ポンペイ島の歴史は、

840年 ポンペイ島のウー地区に居住遺跡

1200年 ナンマトール遺跡

写真2は筆者が撮影したナンマトール遺跡である。

1529年 Alvaro de Saavedraが、スペイン船フロリダで、北緯6度か7度で島を発見、おそらくポンペイ島

1886-1899年 スペイン統治

1899-1914年 ドイツ統治

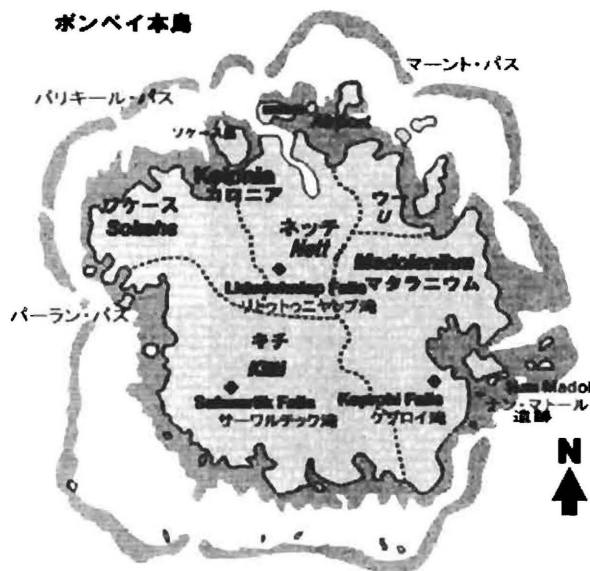


図3. ポンペイ島の地図  
<http://www.visit-micronesia.fm/j/pohnpei>から引用

1914-1945年 日本統治

写真3は筆者が撮影した観光局の隣に置かれていた日本軍のミニタンクである。

1945-1979年 アメリカ統治

1979年5月10日 ミクロネシア連邦

1986年11月3日 独立

ポンペイ島は、平均直径約24kmの東西にやや長い円形で、海岸線は入り組んでいる。周囲は堡礁が発達しており、ラグーン内の25の小島と共に島のほぼ全周を囲んでいる。面積は約330平方kmでミクロネシア連邦最大の島である。図3は、ポンペイ島の概略図を示している。人口は1992年で約34,000人。コロニア (Kolonia)、ネッチ (Nett)、ウー (U)、マタラニウム (Madolenihmw)、キチ (Kitti)、ソケース (Sokehs) の6つの地区に分かれている。

民族、言語については、ミクロネシア系の住民が多い。民族としては、一般的にはポンペイ人 (Pohnpeian) と呼ばれ、ポンペイ島住民の出生地は、ポンペイ州が95%であり、残りはミクロネシア連邦の他州、他の太平洋諸島、フィリピン、アメリカ合衆国となっている。

ポンペイ島で話されている言語は、日本ではボナベ語と呼ばれている。

公用語は英語であるが、普段の生活ではボナベ語が広く用いられている。第一言語はボナベ語が75%であるのに対し、英語は4%に過ぎない。この他チューク

語、ピンガラップ語、モアキロア語等が用いられる。すべてのミクロネシアの言語は、マダガスカルから太平洋の東端まで広く分布する数百のオーストロネシアン言語族に含まれる。

## データと方法

資料として、Ponapean-English Dictionary (Kenneth L. Rehg, Damian G. Sohl 1979) を用いた。この辞書の共著者 Damian G. Sohl は、*„A narrative speaker of Ponapean, was formerly director of the Ponape Department of Education and is currently director of the Ponape State Hospital となっていたが、1994年に我々が彼にあったときには、Director of Health Servicesであった。*

各用語についてデータベース化した。

由来がどの国の言語かについては、辞書の記載に従った。英語から日本語経由でボナベ語になったものについても、同様に、辞書の記載に従った。

## 結 果

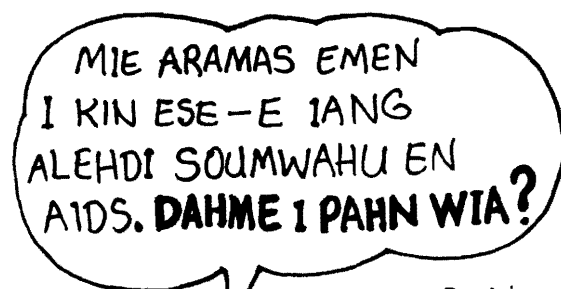
現地ではボナベ語をアルファベット表記するのが一般的ではあるが、その順番や内容は異なっている。文字は16の単文字と4つの複文字で構成されている。すなわち、a e i o o a u h k l m m w n n g p p w r s d t w の20文字である。

図4は、ボナベ語のサンプルであり、WEHWEHKI DAHKOT SOUMWAHU EN AIDS (どうしたら AIDS に感染するかを理解するために) の冊子から1部分を引用した。この冊子は、元々 WHO と UNESCO が太平洋諸国のためのエイズ予防のための実習材料として、1988年フィジーで開発されたものを、1993年に WHO と CDC の基金で、ミクロネシア連邦政府エイズ予防管理計画がポンペイでの AIDS や STD の予防のために改訂、ボナベ語翻訳を許可したものである。

ボナベ語はまた、同じ内容のものでも表記が異なるものも見られた。

総用語数は6,687語であり、日本語からボナベ語になったものが227語であった。英語から日本語になり、更にボナベ語になったものが67語であった。

外来語からボナベ語になったものは他に英語、スペイン語、ドイツ語、タガログ語等であった。



Pweki omw ese me mwasen HIV sohte kin dou nan atail mwekid me kitail kin wia rahn koaros me duwehte lokaia, oh mwenge pene de kouson pene, ke dehr wiahki irail aramas me ahneki mwasen HIV de soumwahu en AIDS ehu soahng de mehkot keper.

Irail me alehdier mwasen HIV de soumwahu en AIDS ahneki anahn en aramas duwehte aramas koaros me anahne sawas. Ke dehr kanameneki irail de kansensuwedi irail oh pil pohn sehse irail.

Medewe ni ansou me ke ahneki soumwahu ieu eri kempoakepemw kan sohte men lokaia ong uhk oh sohte men karanihuk. Irail me ahneki soumwahu en AIDS anahne sawas oh iren kakehlail sang kempoakeparail oh peneinei kan. E sohte dehde kahrepe dahieu ken masak irail me kohwa soumwahu en AIDS.

14



図4. ボナベ語で書かれたパンフレットの事例

日本語由来の用語を医療健康関連、軍隊関連、生活関連、体育関連、食品関連、ゲーム関連、交通関連、農業関連、衣類関連、その他に分類した結果：

健康や病気関連の用語は、表1のように iddai (痛い), ohdai (包帯) 等の8語しかなかった。

軍隊関連用語は、表2のように25語であった。

生活関連用語は、表3のように49語であった。

体育関連用語は、表4のように19語であった。

食品関連用語は、表5のように32語であった。

ゲーム関連用語は、表6のように18語であったが当

時のゲームについての詳細は調査不足である。

交通関連用語は、表7のように7語であった。

農業関連用語は、表8のように6語であった。

衣類関連用語は、表9のように4語であった。

その他は、表10のように59語であった。

元々英語であるが日本語経由でボナベ語になったものは masuku (マスク) や milikkang (ミルク缶) のようなものであるが、野球関連の用語が多く感じられた。

## 考 察

ミクロネシア連邦は、大航海時代から、スペイン、ドイツ、日本、アメリカと統治国が変遷し、1987年にアメリカから独立をしたものの未だに、国家予算の殆どをアメリカ合衆国に依存している国である。

ミクロネシア連邦においては、公用語、共通語として英語を用いることになっているが、実際はそれぞれの州で昔から話されてきた言語を未だに用いている。

ポナベ語の辞書としては、1880年に Luther H. Gulick 師が The American Oriental Society Journal に “A Vocabulary of the Ponapean Dialect” として 2,700語を掲載したのが始まりのようである。

その後 1950 年に Fr. Paulino Cantero (a native speaker of Ponapean) が謄写版刷りで “Ponapean-English Dictionary” に 5,000語を掲載した。

他に便利なブックレットとして 1968 年から 1969 年にかけて。ボンペイのボランティア Alan Burdick と Peace Corps が “Dictionary of the Ponapean Language” を出版した。これには約 1,500語掲載されていた。

日本は 30 年余りに渡ってミクロネシアを支配し、原住民の人口数より多く移住して管理したばかりでなく、学校で日本語教育を実施した。その結果ボンペイ島においては、ポナベ語の約 4.4% が日本語由来の用語であり、dengwa (電話) 等は今でも生活に普通に溶け込んでいる用語のようである。当時学校で強制的に日本語を覚えさせられた世代は年々減少し、日本語を話すボンペイ島の人々は減っていくと思われるが、言語として定着してしまった用語は、なかなか無くならない。物の名前であれば、それが使われなくなれば消えて行くかもしれない。しかしながら思考や態度等に関連する用語はなかなか無くならないと考える。ある酋長が「ドイツはペストを、日本は文化を、アメリカはお金を持ってきた。」と言ったそうだが、我々もまた現

地で「日本人は、金はあまりくれなかったが仕事をくれた。アメリカ人は、金はくれるが仕事をくれない。」と聞いたことがある。namaiki (生意気), pakehro (馬鹿野郎), pakking (罰金), rakudai (落第), isipangpiri (一番どり) 等の用語があることは、彼らに対してどんな接し方をしたかは容易に想像がつくし、dohming (島民) というのは差別用語だと辞書に記述もあった。沖縄出身者が多かったのに、このような結果であるのは、どのように考えればいいのだろうか。おおらかな性格の彼らに救われたと考えたいが、現代の人たちは、私たちをどのように考えているか、我々が、彼らとどう接して行くか、やっかいなところである。それにしても、「もったいない」が辞書になかったのが悔やまれる。

終わりに、データ入力に際して、多大の労力を頂いて本学看護学部 藤本小夜子さんに深謝します。

## 文 献

- 1) Gene Ashby, Pohnpei An Island Argosy (1993), Rainy Day Press, F.S.M.
- 2) Kenneth L. Rehg, Damian G. Soul, Ponapean-English Dictionary (1981), University of Hawaii Press, Hawaii
- 3) Mikami S, Nihira S, Takemori K, Burgoyne C and Norman S. (1994), Blood Pressure and Mineral Contents in Inhabitants of Pohnpei Island, Kagoshima Univ. Res. Centers. Pac. Occasional Papers, 26, 49-51
- 4) Susumu Nihira, Seiji Mikami and Ciro Barbosa (1986) A Study on Blood Pressure and Mineral Excretion of Students in Micronesia (Ponape Island), The Prompt Report of the Fourth Scientific Survey of the South Pacific, 65-67
- 5) 田尻英三 戦争と日本語 (1989), オセアニア物語, めこん, 東京, 234-235

表1. 健康や病気関連用語

iddai	痛い
ohdai	包帯
kampio	看病
kensa	検査（人）
mwohso	盲腸
paiking	ばい菌感染
pioing	病院
rimpio	淋病

表2. 軍隊関連用語

aikiu	配給
aikiuih	配給
umpang	運搬
kaigun	海軍
kakudai	楽隊
kansohpa	乾燥場
kandoku	監督
kikansu	機関銃
kinsipakudang	原子爆弾
kukusuh	空気銃
niondo	日本刀 <sup>#1</sup>
pakudang	爆弾
pampe	番兵
pamsahi	万歳
pwohkungo	防空壕
rappa	ラッパ
skohso	飛行場
daiasu	大発 <sup>#2</sup>
daidowa	大東亜
dangkaido	サーチライト <sup>#3</sup>
dempwo	電報
dempwo	電報を出す
dempwo	無線
deriudang	手りゅう弾
sendohki	戦闘機

#1：銃剣  
#2：大型の発動汽艇  
#3：探回灯

表3. 生活関連用語

aisara	灰皿
aiso	？
ami	網 <sup>#1</sup>
asi	箸
ien	円
ikdasi	引き出し
issohping	一升瓶
ido	井戸
opwong	お盆
osihre	押入れ
osiroi	白粉
kama	釜
kama	鎌
kapang	カバン
kasingai	かすがい
kadorsingko	蚊取り線香
kengkang	玄関
kedda	下駄
kingko	金庫
kosdang	？
manaida	まな板
mangnga	まんが
parikang	バリカン
piroski	風呂敷
pwuhseng	風船
pwuhdo	封筒
sarasi	サラシ
sarasko	サラシコ
sawang	皿
sekihda	関板
sikongki	蓄音機
simpung	新聞
sopa	スープ
sorapang	そろばん
sohri	ぞうり
dakasingai	高瀬貝
dako	凧
dana	棚
dane	花壇
dapi	タビ
darai	たらい
dawasi	たわし
deipwukuro	手袋
denso	天井
dengki	電気
dengwa	電話
depwukuro	手袋
dompwuri	どんぶり
waku	刺繍枠

#1：スクリーン

表4. 体育関連用語

apadopi	幅跳び
asmaki	はちまき
adasi	はだし
iakiu	野球
iakumehda	100m
isipangpiri	一番びり
undohkai	運動会
kassoku	？
kesso	決勝
koro	プロ
powhdaka	棒高飛び
rensuh	練習
sansing	三振
sandangdopi	三段跳び
sensuh	選手
songaipwisi	障害物
suhdo	柔道
daka	高飛び
dakadopi	高飛び

表5. 食品関連用語

iasai	野菜
okasi	お菓子
umepwosi	梅干
udong	うどん
karindong	かりんとう
kasuwo	かつお
kasuwopwisi	かつおぶし
kiuhri	きゅうり
kona	こな
kohri	水
mame	豆
mamenoki	豆の木
mansu	饅頭
manguro	まぐろ
miso	味噌
nappa	白菜
nasupi	茄子
nengi	ねぎ
ningi	ねぎ
ramen	ラーメン
ramwune	ラムネ
sakana	魚
sake	酒
samma	サンマ
sasimi	さしみ
soiu	しょうゆ
suika	スイカ
sukiaki	すき焼き
daikong	大根
dakuwang	沢庵
damango	卵
dempwura	てんぷら

表6. ゲーム関連用語

airas	穴入れゲーム
aida	穴入れゲーム
anaire	穴入れゲーム
iokoiko	穴入れゲーム
isimome	?
mannaka	穴入れゲーム
naisi	穴入れゲーム
nireng	二連
pannukas	穴入れゲーム
rokupadda	?
saike	じゃんけん
sakura	?
sangke	じゃんけん
su	?
damaski	?
dameni	穴入れゲーム
deng	点
dorno	?

表7. 交通関連用語

undeng	運転
kisa	汽車
kuruma	車
pwoampwoamw	ボンボン船
sidohsa	自動車
doro	道路
demma	伝馬船

表8. 農業関連用語

une	畝
koiasi	こやし
kuwa	クワ
sohpw	町歩
supwo	坪
dampwo	田んぼ

表9. 衣類関連用語

arimaki	腹巻
osime	おしめ
pwundosi	ふんどし
sarmada	さるまた

表10. その他

ainoko	合いの子
anapi	花火
ansu	杏
apwraiasi	?
adaru	当たる

impiokai	品評会
iranai	いらない
kaiko	解雇
kairu	蛙
kaisa	会社
kakko	格好
kampare	がんばれ
kangkohdang	観光団
kasdo	活動
kendo	検討
kisingai	きちがい
koukang	交換
kuro	黒
mai	上手い
makunai	上手くない
masinoki	櫓の木
mada	股
mwusing	無尽
namaiki	生意気
namari	訛り
nenne	ねんね
nompe	のん兵衛
pakadanah	馬鹿だなあ
pakehro	馬鹿やろう
pakking	罰金
pariki	馬力
passai	伐採
pengohsi	弁護士
rakudai	落第
saingo	最後
samurai	侍
samusi	?
sikeng	試験
simekiri	締め切り
sipiring	?
sirangkau	知らん顔
sohko	倉庫
sohpai	商売
suhmwong	すまん
daiksang	大工さん
dadimai	建て前
deiksang	大工さん
dekking	鉄筋
densi	バッテリー
densinpasura	電信柱
de n denmwosi	でんでんむし
deng	点
deppang	鉄板
dokange	とかげ
dompiki	?
dohming	島民
dopas	飛ばす
dohranai	通らない

dohdai	灯台
--------	----



## A study on the Ponapean language related health or disease sourced by Japanese spoken on Pohnpei Island in the Federated States of Micronesia

Seiji MIKAMI<sup>1)</sup>, Koichi TAKEMORI<sup>2)</sup>, Yutaka ASADA<sup>2)</sup>  
and Susumu NIHIRA<sup>3)</sup>

**Abstract :** Abstract : Health- and disease-related terms from the Ponapean language, spoken on Pohnpei Island in the Federated States of Micronesia (FSM), were selected from a Ponapean-English Dictionary and entered into a database for analysis.

The following results were obtained:

1. Of the 6687 health- and disease-related terms selected from the Ponapean language, 294 terms originated from the Japanese language.
2. Only 25 military-related terms were found to be of Japanese-language origin, which is considered to be a small number for a region occupied by a foreign power.
3. Although only 9 health- and disease-related terms of Japanese-language origin were found, 19 athletics-related terms of Japanese-language origin were identified.

**Key words :** Federated States of Micronesia, Pohnpei Island, Ponapean, Japanese

---

1) Faculty of Nursing, Hirosaki Gakuin University

Corresponding author. Seiji Mikami Ph.D. 20-7 Minorichou, Hirosaki 036-8231, Japan

2) Faculty of Health Sciences, Aomori University of Health and Welfare

3) Hachinohe Health Center